

Fenestra

京大西洋史学報



第7号 (2023年4月)

京都大学大学院文学研究科
西洋史研究室

フェネストラ

京大西洋史学報

第7号 目次

論説

佐々木博光

ソサイエティ再論1

高田京比子

マルコ・ケリーニの裁定とバッサーノ—13世紀後半のヴェネト（イタリア北東部）
の小都市をめぐる地域秩序—12

井上文則

古代西部ユーラシア史の構想27

動向・紹介

林祐一郎

ドイツ系プロテスタント教会による日本伝道と関西 —普及福音新教伝道会の宣教師
エミール・シラーを中心に—35

新田さな子

こざき亜衣『セシルの女王』（小学館）44

研究集会の記録

神津智史

Kyoto University European History Seminar 7 October, 2022 活動報告59

新田さな子

Early Modern British History Seminar 12 January 2023 活動報告60

西洋史研究室の現在

新任教員の紹介61

時代別演習と専任教員の講義63

大学院生の研究68

編集後記 77

《表紙解説》「フッゲライ」の窓

ドイツ南西部の都市アウクスブルクに「フッゲライ (Fuggerei)」という社会福祉住宅がある。その名の示す通り、ドイツ宗教改革開始の前年、1516年に大富豪ヤーコプ・フッガーによって建設が始められ、1521年に規約が制定されて恒久的慈善施設として成立した(2021年に500周年)。経済的に困窮した、アウクスブルクに住むカトリック信徒に対して、住居が提供された(年1ライヒスターラー/現在0.88ユーロ)。第二次世界大戦で甚大な被害を受けるが再建され現在も機能し(およそ140戸に150人ほどが暮らしているとのこと)、訪問者は過去と現在を体感することができる。写真は公開されている住居から窓越しに外を写したもの。歴代の入居者たちはこの窓から外を眺めやりながら、何を思っていたのだろうか。

編集後記

毎年、編集後記に書くべき「危機」が積み重なってくるかのようです。コロナ、ミャンマー、ウクライナ・ロシア戦争、トルコ・シリア地震の次は、Chat GPT に代表される生成系 AI の衝撃です。開発を一旦見合わせるべきだという開発当事者・識者の意見が表明されるほど、事態は急展開しています。大学での講読、レポート、論文の評価はどうになってしまうのかといった身近な話にとどまらず、いよいよ人間の方がコンピュータの端末と化してしまうのか、あるいは想像もできないバラ色の未来が開けるのかなどと考えるにつけ、これは人類史の分水嶺との思いを強くします。

ともあれ、今号に掲載された文章は（私が把握している限りですが……）人間が書いています！今を生きる不完全な人間が、西洋の歴史を、熱意をもって探究し、別の人間に伝えようと創意工夫して書いています。人間製の「窓（フェネストラ）」です。ぜひご味読ください。

なお、今号の編集には、新田さな子さん、坂野水咲さん、藤本俊哉さんの三人が携わっていただきました。研究室における数年にわたるノウハウの蓄積と継承のおかげもあり、スムーズに編集作業が進んだとのこと。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

（金澤）

2023年4月30日発行 非売品

『フェネストラ——京大西洋史学報——』（第7号）

発行者 京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

電話 075-753-2791